

第3章 構築工

第1.コンクリート工

1.コンクリート

「国土交通省土木工事標準積算基準書 - 4 - コンクリート工」によるものとする。なお、コンクリート配合については、表1-1を標準とする。

表1-1 コンクリート構造物の分類及び標準適用配合

構造物種別	コンクリート構造物の分類	標準適用配合
無筋構造物	マッシブな無筋構造物、比較的単純な鉄筋を有する構造物、均しコンクリート等 (例)均しコンクリート、水道管保護コンクリート	B ₁ ~ B ₆ C ₁ 、C ₂
鉄筋構造物	水路、水門、ポンプ場下部工、桟橋上部コンクリート、橋梁床版、壁高欄等の鉄筋量の多い構造物 (例)水道弁室、複雑な水道用保護コンクリート	A ₁ ~ A ₆ B ₁ ~ B ₆
小型構造物	1) コンクリート断面積が 1 m ² 以下の連続している構造物 2) コンクリート量が 1 m ³ 以下の点在する構造物 (例)側溝、照明、標識、防護柵等の基礎、集水枡、蓋板、コンクリート枠(現場打のみ)、目地コンクリート、目詰コンクリート、裏込コンクリート	C ₁
建設局管理の道路構造物	道路構造物(街渠、側溝、縁石、境界石等)	B ₇

2.その他

(1) 手練りコンクリート

曲管保護工等において現場練りコンクリートを使用する場合は、次表を標準とする。

表2-1 コンクリート手練り歩掛表 (1 m³当り)

コンクリート	特殊作業員(人)	普通作業員(人)
呼び強度18N / mm ²	0.95	0.25

表2-2 手練りコンクリート配合 (1 m³当り)

呼び強度 (N/mm ²)	高炉セメント (kg)	細骨材 (m ³)	粗骨材 (m ³)	スランプ (cm)
18	275	0.47	0.65	8

(2) モルタル上塗歩掛

表2-3 モルタル上塗歩掛表 (1m²当り)

種 別	労 力		適 用
	左 官	普通作業員	
モルタル上塗 (厚 1cm)	0.15	0.05	壁 面
	0.05	0.04	床 面

(注) 塗面積の大小作業の難易により適當な値を用いること。

第2.型枠工

「国土交通省土木工事標準積算基準書 - 4 - 1型枠工」によるものとする。

第3.基礎・裏込碎石工

「国土交通省土木工事標準積算基準書 - 2 - 基礎・裏込碎石工」によるものとする。

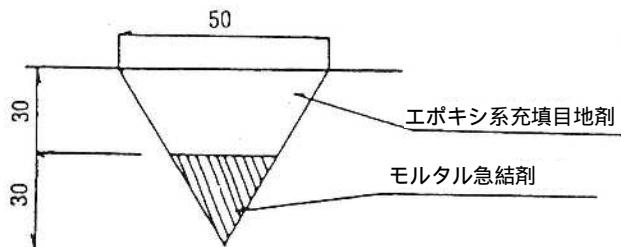
第4.Vカット止水工

1. 積算基準

(1) 適用範囲

本歩掛は、暗渠及び池状構造物の止水工事に適用する。

(2) 防水工標準図



漏水状態

モルタル急結剤	$(\text{m}) \quad (\text{m}) \quad 1 \quad (\text{m}) \quad (\text{kg}/\text{m}^3)$
	$W_1 = 0.03 \times 0.025 \times \frac{1}{2} \times 1.0 \times 2.9 \times 10^3 \times 1.2 = 1.31 \text{kg}/\text{m}$
工ポキシ系充填目地剤	$(\text{m}) \quad (\text{m}) \quad (\text{m}) \quad (\text{kg}/\text{m}^3)$
	$W_2 = (0.025 + 0.05) / 2 \times 0.03 \times 1.0 \times 1.65 \times 10^3 \times 1.15$
	$= 2.13 \text{kg}/\text{m}$

乾燥状態 工ポキシ系充填目地剤 $W = 0.06 \times 0.05 \times \frac{1}{2} \times 1.0 \times 1.65 \times 10^3 \times 1.15 = 2.85 \text{kg}/\text{m}$

2. はつり、止水、充填、雑工歩掛

(1 m当り)

工種	労力	乾燥状態止水工		漏水状態止水工	
		施工性難	施工性良	施工性難	施工性良
はつり工	はつり工(人)	0.1	0.07	0.2	0.14
	普通作業員(人)	0.1	0.07	0.2	0.14
止水工	左官(人)	-	-	0.2	0.2
	普通作業員(人)	-	-	0.2	0.2
充填工	左官(人)	0.2	0.2	0.2	0.2
	普通作業員(人)	0.2	0.2	0.2	0.2
雑工	普通作業員(人)	0.1	0.05	0.1	0.05

(注) 1. 諸雑費は材料費の 5 %とする。

2. はつりガラの小運搬、処分費を含む。

第5. 鋼製付属設備製作工及び据付工

「国土交通省土木工事標準積算基準書 14鋼製付属設備」によるものとする。